

新学習指導要領の実施が2022年度に迫る中、21年度は、新課程に向けた計画とその実践を通じた授業と評価の改善が求められる。新課程初年度に向け、実践事例や解説記事により現場の疑問や課題を解決し、自校の計画・実践につながる情報を提供する。

— 疑問や課題を解決！実践につながる！ —

## 新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

テーマ

# 観点別学習状況の評価の試行

### 実践レポート

新課程を見据えた観点別評価の実践を通して、  
資質・能力の育成につながる評価のあり方を追求

#### 静岡県立御殿場高校ごてんば

静岡県立御殿場高校は、「地域とともに未来を創るスペシャリストの育成」を教育目標に掲げ、カリキュラム・マネジメントを推進してきた『VIEW21』高校版2020年2月号P.4〜7参照。22年度からの新教育課程に向けた観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）の実践にも、20年度からいち早く取り組んでいる。

## Q1 3観点での観点別評価の実践に取り組んだ背景は何か

観点別評価の研究の必要性は校内で共有されていたため、実践することで見えてくる課題や気づきを22年度の評価計画に生かすべく、20年度より学校全体で観点別評価を試行した

## A1 20年度の途中から試験的に観点別評価を実施

菅原尚規先生（教務主任） 近年、本校は、静岡県総合教育センターの研究協力校として、公開授業研究会や教科横断型校内研修会など

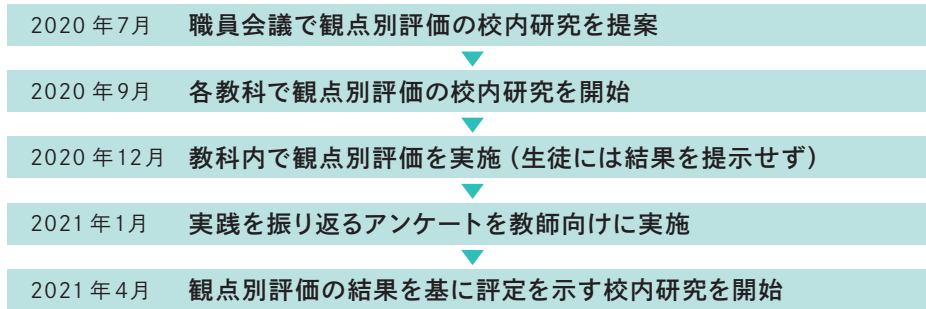
を校内で開催してきました。そうした場で得た知見から、観点別評価に関する研究に着手する必要を多くの教師が感じていました。観点別評価に対する根本的な理解から始めるのはハードルが高いように思いました。そこで、ま

ずは実践してみてもうまいかな、といったところがあれば話し合っ解決策を考え、改善を重ねていく研究の形を採ることにしたので。

20年4月から、県の指導主事の助言も得ながら校内研究の詳細な内容を検討し、7月の職員会議では、9月からの校内研究の目的と内容、その後の流れなどを提案しました（図1・図2）。

校内研究では、まず2学期に各教科で観点別評価を実施し、学期末の成績評価の際、成績報告書の所見欄にABC評価を記載することにしました。ただし、その評価

図1 御殿場高校の取り組みの流れ



※学校資料を基に編集部で作成。

はあくまでも研究の一環であり、今年度の実際の評価とは連動させないため、生徒には結果を提示しないこととしました。

## Q<sub>2</sub>

観点別評価の校内研究でどのようなことを重視したか

現状の4観点と新しい3観点をどのように切り分けるか、生徒の実態に合った評価ができるかについて、実際に評価を実施してみて確かめようと呼びかけた

## A<sub>2</sub>

### 校内研究のポイントを職員会議で周知

菅原先生 前述の通り、20年度2学期の観点別評価の校内研究は、7月の職員会議で提案しました。22年度からの新教育課程実施に向けて、観点別評価の計画は避けて通れないものであるということもあってか、校内研究の提案に対しての反対意見は出ませんでした。職員会議では、研究で特に重視してほしい内容として、次の2点を共有しました。1点目は、現状の4観点と新しい3観点を切り分けます。特に、「知識」と「技能」が「知識・技能」と1つの観点となったことで、どのような変化が生じるのか、実技系科目にとって

図2 観点別評価の研究に関する提案要旨(7月職員会議)

#### ◎20年度2学期末の成績評価から、以下の流れで観点別評価を行う。

- ① 20年度2学期末の成績評価から、新学習指導要領における3観点での観点別評価を行う。(ただし、試験導入とする)
- ② 観点別評価の妥当性を教科内で検討、研究し、以下につなげる。
  - 単元の観点別の目標
  - 観点の主旨を踏まえた評価規準
  - 評価の場面や方法
- ③ 21年度は、観点別評価を10段階の評価に変換する研究を行う。

#### ◎具体的な取り組みの例

##### ①知識・技能

- 暗記ができていれば解けるもの、授業で教えた内容や課題で学んだ内容を直接答えさせるものとする
- 定期考査以外にも、小テストなどで測る など

##### ②思考・判断・表現

- 授業で学んだことを基に、自分で考えたり、応用したりする力を見る
- ペーパーテストでは、初見かつ、授業で学習した内容を応用しないと解けない問題を出し、その部分を「思考・判断・表現」の評価と捉える
- 評価の規準は試験より前に決めておき、ルーブリックで生徒に示しておく など

##### ③主体的に学習に取り組む態度

- 授業前後の自分の姿容をどの程度捉えられているかを評価する
- 授業の前後、単元の前後などに、目標を定めたり、自分の取り組みを振り返ったりするペーパーなどを書かせ、その記述内容を評価する
- 新たに学んだこと、分からなかったこと、もっと知りたいことなどを積極的に記述しているものを評価する など

※学校資料を基に編集部で作成。

は重要なテーマになります。2点目は、3観点による評価と、現状の評価のずれです。20年度の

Bラインの評価規準や、どういった評価手法を用いるかなどについて、あえて細かいルールは設

研究では、評定を出すことは求めなかったため、数字での比較はできませんが、目の前の生徒に対する現状の見取りと3観点の評価とのずれが大きい場合は、その原因はカットラインなのか、あるいは評価材料なのかを考えるよう、先生方にお願いました。

けず、各教科に任せました。「評価規準についても、学校独自で設定するものだからこそ、まずは自分たちで運用してみて、分からない

いこと、うまくいかないことが出てきたら、それを教科内で話し合いました」と呼びかけました。

### Q3 教科での具体的な取り組みはどのようなものか

# 3

各単元の到達目標と評価の方法を生徒に伝えた上で、定期考査の各大問に、評価する資質・能力を明記した

### A3

評価が難しい観点をどのように見取っていくか

菅原先生 私が担当する国語では、「知識・理解」を「知識・技能」に、「話す・聞く・書く・読む」を「思考・判断・表現」に、「関心・意欲・態度」を「主体的に学習に取り組む態度」に対応させて、定期考査の問題を検討しました。生徒には、「授業で身につけた力を、初見の文章の読解でも発揮できるようにすることが求められる」と、

考査を通じて評価する資質・能力について丁寧に説明しました。その上で、合計点に加え、観点別の得点も答案に明記しました。

生徒の学びの意欲を高く維持するためには、単元の流れも重要です。ある単元で、新聞の社説の読み比べを通じて批判的に物事を捉えることの大切さを学んだら、次の単元では、批判的なまなざしで社会の出来事を見つめ、実際に意見文を書くといった工夫をしました。

図3 読み方の基礎 単元まとめのレポート

論理展開を確かめる 単元まとめ

HRNO \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

この単元では評論の読み方とグラフや数字の見方を学習しました。授業を踏まえ、評論を読む上で注意すべきことを論じなさい。


---

◆ループリック

A	・授業で取り扱った評論を読むための具体的な方法をもとに、授業での気づきや自分なりの視点を含めて、評論文を上で注意すべき点を記述できている。 ・相手に伝わるように論理的かつ表現に注意して書かれている。
B	・授業で取り扱った評論を読むための具体的な方法をもとに、評論文を読む上で注意すべき点を記述できている。 ・相手に伝わる表現で書かれている。
C	・授業で学んだことが書かれていない。 ・文章表現が適切でない。 ・テーマからずれている。字数が不足している。

20年度の研究を経て、単元の終了時に行う生徒の自己評価の重要性に気がついた。そこで、21年度の研究では、ループリックを明示した単元まとめのレポートを生徒に課すことにした。  
※学校資料を基に編集部で作成。

研究を通して実感したのは、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の難しさです。現行の4観点での評価でも、「関心・意欲・態度」の評価に課題を感じている教師は多いと思います。国語科では、授業ごとに振り返りを書かせ、それを基に評価していましたが、むしろ単元の最後に、自分が何を学んだのかを客観的に振り返り、身につけたこと、足りなかったことを

メタ認知させた方が次の学びにつながるのではないかと考えました。そこで、21年度は、ループリックを並記した「単元まとめのレポート」(図3)を課し、ABCで評価して生徒に返却するようにしています。生徒には、「評価に一喜一憂せず、ループリックを見直して、何が足りなかったのか、次はどうしたらよいかを考えることが大切だ」と伝えていきます。

## Q4

### 校内研究で新たに覚えてきた 課題は何か

## A4

「主体的に学習に取り組む態度」の評価が鍵。21年度は観点別評価を評定につなげ、生徒の実態にふさわしい評価計画を作成する

生徒の実態を踏まえて、  
生徒に合った評価を模索

菅原先生 20年度2学期の実践を経て、21年1月に観点別評価の校内研究に関するアンケートを教師向けに実施したところ、多くの教師が従来の評価とあまりずれを感じなかったことが分かりました(図4)。ただ、「知識・技能」「思考・判断・表現」はCだが、「主体的に学習に取り組む態度」はAといった生徒が出てきた場合についての問題提起がありました。3観点は連動している以上、「知識・技能」「思考・判断・表現」の力が高まっていなければ、自己調整ができていないわけですから、「主体的に学習に取り組む態度」の評

図4 観点別評価についてのアンケートで分かったこと

- 約9割の教師が、新観点での評価と従来の観点での評価とのずれは気にならない程度だと考えている
- 新観点での評価で大変だったこととして最も多かったのが、「主体的に学習に取り組む態度」の評価
- A B C評価のカットラインや観点別評価の評定への換算などについてはさらに研究が必要
- 研究を通して、評価について一度深く考えたという声が多数上がった
- 評価について個々の考えや取り組みを共有したり、評価規準の目線合わせをしたりするための場を求める声が多かった

※学校資料を基に編集部で作成。

価は低くなるはずですが、生徒の実態を見ると、そう単純に割り切ることはできません。「主体的に学習に取り組む態度」の評価にあたって、多様な評価の場面や材料

をどのように設定・収集すればよいか、知見が不足していると感じました。

21年度は、観点別評価を評定に総括し、従来の基準で行った評定と比べてみることになりました。まずは1学期末にその比較を行います。難しかったとの声が多かった、「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、単元まとめのレポートを活用する研究を同時に行うように提案しています。

今回の学習指導要領の改訂では、評価そのものの見直しが迫られていると感じています。教師一人ひとりが腹落ちし、統一感を持って取り組めるよう、引き続き研究を深めていきます。



教務主任  
菅原尚規

すがわら・なおき

教職歴24年。同校に赴任して4年目。国語科。

新課程に関する情報は、  
『**ハイスクールオンライン**』  
でお届けします！



事例・解説

● 御殿場高校・菅原先生のインタビュー動画を公開中！

今回ご紹介したお取り組みに関するインタビュー動画をハイスクールオンラインに掲載しています。校内研究に関する資料や、単元まとめのレポート等の学校資料もダウンロードいただけます。ぜひご覧ください！

『**ハイスクールオンライン**』

トップページ>新課程>【先生インタビュー】観点別学習状況の評価の実践

[https://bhs0.benesse.ne.jp/hs\\_online/shinkatei/report/210006.html](https://bhs0.benesse.ne.jp/hs_online/shinkatei/report/210006.html)